

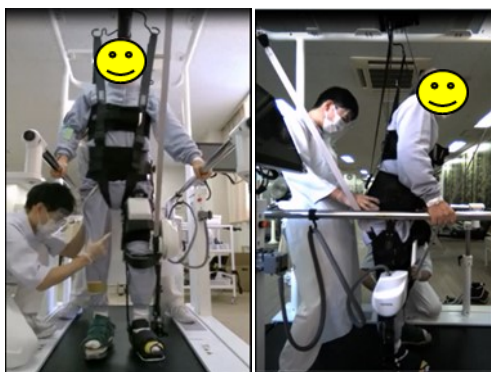


地域連携だより

<ウエルウォーク導入後のご報告>

もっと歩きたいを実現することで患者さんが笑顔になりました

今月の東大阪病院ニュース（11月号）でご紹介しております様に、このたび、10月12日にトヨタ自動車株式会社が開発・製造された歩行練習アシストロボット『ウエルウォーク』を導入しました。導入後1ヶ月が経過し、数名の患者さんに使用いたしました。ウエルウォークを使用し、様々な効果が得られましたので、3つの効果に分けてご報告させていただきます。



～患者さん紹介～ ※本人の同意を得て掲載しております。

70代 男性 術後18週目 当院入院7週目

【主症状】 下肢の運動麻痺 重度の感覚障害あり
(地面に足を接地した感覚がほとんどわからない)

←歩行練習中に実際にウエルウォークに表示される画面です。

効果① 歩行能力向上

	回りハ病棟 入院 0 日目	ウエルウォーク導入前 37日目	ウエルウォーク導入日 38日目	導入10日後 48日後
歩行距離	0m(立位のみ)	6m	15. 1m	116. 5m
歩行できた時間	0秒	1分	4分35秒	23分22秒
歩数	0歩	30歩	90歩	610歩

効果② 患者さんのリハビリ意欲向上

ウエルウォークを初めて使用した後、担当の療法士に患者さんから握手を求めてこられるほど笑顔になられ、感動されていました。加えて『歩いている実感がある。平行棒で3人に抱えられて歩いていた時は、足元も見えずどのように歩いているかもわからなかった。この機械は前の画面で足も見えるし、どんな姿勢で歩いているかも横のカメラでわかる。介助も痛くない。歩いた距離もその場でわかるし、昨日より歩きたいという気持ちになる。この機械は良いよとみんなに伝えたい』と仰っていました。

効果③ リハビリ施工側への効果

- ・免荷機能により療法士の体格・性別に関係なく介助量の多い方の歩行が行えるようになりました。
- ・長下肢装具を用いての介助歩行中は転倒しないことにかかなりの注意を向けていましたが、『最適な難易度（設定）であるか』に注力できるようになりました。
- ・過去の映像も自動で全て保存されているため、コロナ禍でリハ見学できない家族さんへ動画をみていただきながら、回復状況をお伝えし易くなりました。

これからも患者さんの希望される『もっと歩きたい』を少しでも叶えられるよう全力で支援させていただく所存です。

※尚、ウエルウォークの使用は当院入院中の患者さんに限らせていただいております。ご了承ください。

裏面では当院の急性期～在宅まで、どのようにリハビリが関わっているかご紹介させていただきます。

当院のウエルウォーク紹介ページはこちら→



当法人のリハビリテーションの強みについて



リハビリ部 主任
矢越 智幸

はじめまして、リハビリテーション部の理学療法士 矢越智幸と申します。
今回は、地域のクリニックや施設の先生方に、当法人のリハビリテーションの強みについて、紹介致します。

◎【強み1】

入院から在宅まで『切れ目のないリハビリテーション』を提供できます。

急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟でのリハビリテーションはもちろんのこと、退院後のリハビリテーションに至るまで『切れ目のないリハビリテーション』を提供できることです。

≪急性期のリハビリテーション：リハビリテーション部が担います≫

- ・早期リハビリの開始：入院当日または翌日からリハビリテーションを開始しています。
- ・充実した訓練量：土日/祝日もリハビリテーションを提供できる体制で運営しています。
- ・ウェルウォーク：急性期病棟に入院された方も使用可能です。

≪回復期のリハビリテーション：回復期リハビリテーション課が担います≫

- ・1日の訓練量は、脳血管疾患：8単位以上、運動器疾患：6単位以上を確保しています。
- ・万一の急変時は、当院の一般病棟に転床し、治療とリハビリテーションを継続できます。

※当法人のリハビリテーション部門のホームページはこちら →



≪在宅でのリハビリテーション：在宅リハビリテーション課が担います≫

- ・「その人らしい生活を取り戻すこと」を運営方針とし、その人の生きがいや役割作りなど、様々なニーズに対してリハビリテーションを提供しています。
- ・言語聴覚士も在籍しており、嚥下の評価や栄養面に対するアドバイスも行っています。

※当法人の在宅リハビリテーション課のHPはこちら →→→→



～同一法人であるためリハビリ療法士間の情報共有や連携が円滑なことが特に強みです～
同一法人内の3部署のリハビリ療法士が連携し、患者さんの情報やリハビリゴールの共有が円滑となり、それぞれの病期に応じて計画的なリハビリテーションが提供可能です。

◎【強み2】

在宅復帰を支援するため積極的に家屋評価を実施しています。

急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟を問わず、在宅復帰を目指す患者さんには、積極的に家屋評価を実施し、入院中から退院後の生活を想定したリハビリテーションを提供しています。

地域住民のみなさまに、入院初期から退院後のリハビリテーションまで、安心・信頼のおけるリハビリテーションを提供できるよう、当法人のリハビリ療法士一同、より一層、努力して参ります。

先生方の施設やクリニックを利用されている患者さんにリハビリテーションが必要となった際は、ぜひ、当院へご紹介いただければと思います。

お問い合わせは、地域医療連携室までご連絡くださいませ。

東大阪病院 **地域医療連携室** 【月曜日～金曜日 8:30～19:30】 【土曜日8:30～17:00】

直通TEL

06-6932-0369

直通FAX

06-6932-0086